

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：33303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12044

研究課題名（和文）アクションリサーチに基づいた成人2型糖尿病患者のレジリエンス教育プログラムの開発

研究課題名（英文）A Resilience education program based on Action research for adult-onset type2 Diabetes patients

研究代表者

村角 直子（MURAKADO, Naoko）

金沢医科大学・看護学部・准教授

研究者番号：30303283

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は長期にわたる糖尿病の療養生活にて生じやすい困難や負担に対して、へこたれず、耐えながら、柔軟に対応している力、つまり糖尿病療養におけるレジリエンスに着目し、レジリエンスを養う教育プログラム作成を目的とした。療養に伴うレジリエンスを向上させる糖尿病教育におけるベストプラクティスの探求のための調査準備として、糖尿病教育及び看護師の糖尿病教育での臨床判断を明らかにするために概念分析を用い、調査内容へ活用を試みた。また、クラスタ分析による2型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンスの特徴をプログラムに活かすことを目的に特徴を明らかとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特徴は長期にわたる糖尿病の療養生活にて生じやすい困難や負担に対して、へこたれず、耐えながら、柔軟に対応している力、つまり糖尿病療養におけるレジリエンスに着目した点である。今までの糖尿病教育の評価視点に加え、新たな糖尿病教育の評価視点として、長期の療養生活を余儀なくされる糖尿病患者の特徴をふまえ、レジリエンス（精神的回復力）を取り上げた。糖尿病教育プログラムを考案し、実際に運用することで糖尿病教育のアウトカム指標を確立し、エビデンスに基づいた糖尿病教育の提供につなげることができる。

研究成果の概要（英文）：We are aiming at to create a resilience education program based on Action research for adult-onset type2 diabetes patients. Because of maintaining self-care can create an emotional burden associated with various hardship for diabetes patients. Exploring ways to improve a resilience for adult-onset type2 diabetes patients' regimen, we tried to prepare the investigation for a resilience education program.

研究分野：糖尿病看護 慢性疾患看護

キーワード：レジリエンス 2型糖尿病 教育プログラム アクションリサーチ 糖尿病ケア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

糖尿病は慢性疾患ゆえに長期にわたる療養生活で困難や負担が生じやすく、ネガティブな影響を最小限にとどめ、柔軟に対応していく力、つまりレジリエンスが不可欠である。

近年、心理、教育領域においてレジリエンスという概念が着目されている。レジリエンスとは、精神的回復力であり、「困難で脅威的な状況にもかかわらず、うまく適応する過程、能力、および結果」(Masten et al. 1990)である。レジリエンスの研究は、近年、がんや腎臓病など様々な疾患を持つ対象において研究が多くなされ、糖尿病医療においてもレジリエンスと糖尿病アウトカム (Denisco 2011) やレジリエンスの概念を取り入れた糖尿病教育プログラムとその効果 (Bererly et. al 2011) に関する研究はみられる。しかし、セルフマネジメントに直結しているレジリエンスに着目し、養うための教育プログラムに発展させた研究はほとんどない。

糖尿病患者は感情障害を含む精神疾患に発展しやすいリスクを背負っていると言われ、糖尿病患者のうちうつ病が 11%、はっきりしたうつ症状が 31%あるとの研究結果 (Wells et al. 1988, Anderson et. al. 2001) がある。レジリエンスは「個人のパーソナリティのようなものでなく、周囲からの働きかけや適切な支援によって変化する個人特性である」ため、糖尿病教育による患者のレジリエンスの変化が期待でき、糖尿病患者のうつ病発症のリスクも軽減できると期待される。教育プログラムの開発により糖尿病患者の療養に伴うレジリエンスの向上が見込める。

本研究での複合的なアセスメント視点を組み入れたレジリエンス尺度は糖尿病教育評価が可能である。弁別妥当性の検討のため療養に伴うレジリエンス尺度 (27 項目) 合計点数において教育入院経験「有」と「無」に有意差が見られたことにより、教育によるレジリエンスの向上が期待できる。

本研究は療養に伴うレジリエンスの概念を基にした糖尿病教育プログラムの開発を目的とする。研究の意義としては、糖尿病教育プログラムを考案し、実際に運用することで糖尿病教育のアウトカム指標を確立し、エビデンスに基づいた糖尿病教育の提供につなげることができる。

「成人 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンス糖尿病教育プログラムの開発」は、以下のように進める予定であったが、概念分析を行い、教育プログラム作成に役立てた。

糖尿病教育を実施している医療機関での教育体制、教育方法を調査し、「成人 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンス尺度 (27 項目)」を調査に活用し、レジリエンスを高めるベストプラクティスを教育入院と外来の 2 つの体制にて明らかにする予定であった。

糖尿病教育および看護師の糖尿病教育での臨床判断の概念分析を行う必要性は、2 型糖尿病患者への糖尿病教育は医療体制やメンバーに関わる人物の種類や教育体制のパターンが複雑であり、糖尿病教育の概念を明らかにし、レジリエンスを向上させる教育プログラムにつなげる必要があった。また、クラスタ分析による 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンスの特徴をプログラムに活かすことを目的に特徴を明らかとした。

2. 研究の目的

糖尿病教育および看護師の糖尿病教育での臨床判断に関する概念を明らかにする。また、クラスタ分析による 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンスの特徴をプログラムに

活かすことを目的に特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

糖尿病教育および看護師の糖尿病教育での臨床判断に関する研究論文より概念を分析した。

「療養に伴うレジリエンスの因子」の因子得点をもとに対象者をクラスタ分析にて分類した。分析で得られた3クラス別に基本属性およびSOC-13の得点、GSES得点の特徴、血糖コントロールの特徴を見出した。

4. 研究成果

(1) 概念分析による結果

療養に伴うレジリエンスを向上させる糖尿病教育におけるベストプラクティスの探求のための調査準備として、糖尿病教育及び看護師の糖尿病教育での臨床判断を明らかにするために概念分析を用い、調査内容へ活用を試みた。

糖尿病教育および看護師の糖尿病教育での臨床判断において、働きかけの概念としてアドヒアランスあるいはセルフケアを支援する大きく2つの見地があった。

(2) クラスタ分析による2型糖尿病の療養に伴うレジリエンスの特徴

成人2型糖尿病患者162名を対象に27項目の療養に伴うレジリエンス尺度に回答を得た。対象者は162名で(男性101名、女性61名)あった。平均年齢は62.3歳±9.04歳(範囲21~78歳)であった。研究者が前の研究で明らかにした「療養に伴うレジリエンスの因子」の因子得点をもとに対象者をクラスタ分析にて分類した。分析にて得られた3クラス別に基本属性およびSOC-13の得点、GSES得点の特徴、血糖コントロールの特徴を見出した。血糖コントロールの把握は、調査時と前6か月間のHbA1c値(NGSP)を把握し、平均値を算出した。

本研究は金沢大学医薬保健研究域医学倫理審査委員会の倫理審査の承認を得た。

結果：2型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンス6因子による因子得点を算出しクラスタ分析(Word法)を用いて対象者を分類した。クラスタ分析の結果、3つのクラスタ(クラスタ1 20名、クラスタ2 78名、クラスタ3 64名)に分かれた。

各クラスタの6因子「療養に伴うレジリエンス」の特徴は、クラスタ1は、第1因子「信頼して療養を任せる身近な人を感じる」が他の因子に比べ高く、第3因子「運動している」は、3つのクラスタの中で一番低かった。第5因子「よくない状況にとどまらない構え」は、クラスタ2よりわずかに低かった。第6因子「大事な足をきれいに保っている」はクラスタ2に次いで2番目に高かった。

クラスタ2の特徴は、第2因子「効果的に学習していることへの自負」と第3因子「運動している」、第4因子「日々の療養に努力している誇らしさ」、第6因子「大事な足をきれいにしている」において得点が3クラスタの中で一番高かった。第5因子「よくない状態にとどまらない構え」はわずかにクラスタ1より高かった。

クラスタ3は、第3因子は、2番目に高かったが、その他の因子は、他の2つの因子と比べ、どの因子も低かった。年齢においては、クラスタ2(平均値64.77歳)とクラスタ3(平均値59.03歳)で有意水準0.05にて有意差が見られた。

各クラスタの特徴：SOC-13合計得点においてクラスタ1がクラスタ2に比べ、またク

クラスタ 2 がクラスタ 3 に比べ有意に高かった ($p=0.001$)。GSES 合計点においてクラスタ 1 がクラスタ 3 に比べ有意に高かった ($p=0.038$)。

3 つのクラスタと血糖コントロールの特徴：各クラスタにおいて、HbA1c との有義な関係性は認められなかった。平均 HbA1c 値は、クラスタ 1 は 7.9%、クラスタ 2・クラスタ 3 は 7.6%であった。

以上、概念分析およびクラスタ分析による 2 型糖尿病患者の療養に伴うレジリエンスの特徴の結果を組み入れ、レジリエンスを向上させる教育プログラム作成と実施に基づいたプログラム修正が今後必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 村角直子、稲垣美智子、多崎恵子、松井希代子
2. 発表標題 クラスタ分析による成人2型糖尿病の療養に伴うレジリエンスの特徴
3. 学会等名 第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村角直子、稲垣美智子、多崎恵子、松井希代子
2. 発表標題 成人2型糖尿病患者の療養に伴いレジリエンス評価尺度の検証 確認的因子分析および弁別妥当性
3. 学会等名 第63回日本糖尿病学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 編集 正木治恵 真田弘美、分担執筆 村角直子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 397(p150-155)
3. 書名 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは、第 7 章 老年看護に活用できる理論・アプローチ レジリエンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲垣 美智子 (INAGAKI Michiko) (40115209)	金沢大学・保健学系・教授 (13301)	

